学校番号	1206

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	（学）自己表現（書道編Ⅱ）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	書Ⅲ（光村図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１・２年次で学習した内容をさらに深め、感性豊かな幅広い表現方法を身につける。自身の表現として作品を制作し、自分や他の人の作品に対する思いを理解するために、それを言葉にする言語活動も行い、鑑賞能力を高める。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 書のよさや美しさを感受し、創造的に構想を練り、個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を深く味わい捉えたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現方法や形式、書表現の多様性が書の創造的活動を通じて幅広く理解できる。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	・書の伝統と文化に豊かに関わり主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	篆書の学習	篆書の古典と技法を学ぶ 篆書の臨書半切作品	a:篆書の歴史、用筆・運筆法を理解し、技能を身に付ける。（知・技） b:線質、字形、風趣の違いを捉え、構成や表現効果について構想し工夫する。（表） c:主体的に表現の創造的活動に粘り強く取り組もうとしている。	篆刻の学習	作品	授業態度
		篆刻の学習	a：目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、書体・書風、配字等による全体の構成の技能を身に付ける。（技） b： 目的や用途、意図に応じた効果的な表現や配字等による構成や表現効果について構想し工夫する。（表） C：主体的に篆刻の創造的な表現の活動に取り組もうとしている。（鑑）	作品	作品	授業態度
		甲骨文字、金文の学習・創作	a:甲骨文字、金文の歴史を知り、時代や字形の違いや風趣の関わりについて理解できる。（知） b:、目的や用途、意図に応じた効果的な表現や配字等による構成や表現効果について構想し工夫する。（表） c:主体的に表現の創造的活動に粘り強く取り組もうとしている。（鑑）	作品	作品	授業態度
	漢字の書	コンクール作品 楷・行・草・隷・草の古典から選択し半紙臨書	a:各書体の特徴と用筆・運筆法を理解し、効果的に表現する技能を身に付ける。 b: 目的や用途、意図に応じた効果的な表現や配字等による構成や表現効果について構想し工夫する。（表） c: 主体的に表現の創造的活動に粘り強く取り組もうとしている。（鑑）	作品	作品	授業態度

後期	草書の学習	名前を色紙に草書で表現	a:書体の特徴を理解し、用筆・運筆法を理解し、効果的に表現する技能を身に付ける。 b: 目的や用途、意図に応じた効果的な表現や配字等による構成や表現効果について構想し工夫する。（表） c: 主体的に表現の創造的活動に粘り強く取り組もうとしている。（鑑）	作品	作品	授業態度
	漢字仮名交じり文	高校生活三年間を振り返って表現しよう	a:漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素や、書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解できる。（知） b:表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し、工夫する。（技） c: 主体的に表現の創造的活動や鑑賞活動に粘り強く取り組もうとしている。（鑑）	作品	作品	授業態度 創作レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度